

事業成果報告書

1. 個人または団体名(団体の場合は代表者名も記入)	
臺丸谷美幸	(代表者名:)
2. 研究または活動のテーマ(課題名)	
日系アメリカ人女性による朝鮮戦争期の従軍経験 ——ジェンダーとエスニシティの視点から——	
3. 助成額	
4,500,000 円	
4. 実施期間	
2015 年 7 月 ~ 2016 年 6 月	
5. 実施状況	
<p>【概要】</p> <p>日系アメリカ人史において、朝鮮戦争へ従軍した日系二世を扱った研究は、ほぼ存在しない。だが朝鮮戦争期は重要である。この時期に米軍は、冷戦を背景としてジェンダーとエスニシティを軸とした大幅な軍備再編・人員編成を行ったからである。本研究の目的は、朝鮮戦争へ志願した日系二世の中でも特に女性(二世女性)に着目し、1950 年代における二世女性の社会進出と従軍経験との関係について考察することにある。しかし、当時の女性の志願者は、少数であることが予測されることから、二世男性も分析対象とし、男性と女性のケースで比較検討を進める。なお、本事業採択直後に、現在の仕事に着任し勤務状況が大きく変化したことにより、当初の研究計画から大幅な変更せざるを得なかった。2015 年夏休みを利用し、カリフォルニア州にて数週間程度のフィールド調査を計画していたが、期間を 2 週間に短縮し、2016 年 5 月に実施した。また、2015 年 9 月には韓国(ソウル、京畿道坡州市)での 1 週間のフィールド調査を追加実施することで、米国、日本、朝鮮半島へまたがるトランスナショナルな日系アメリカ人の朝鮮戦争への従軍経験の記憶と、現在の退役軍人としての顕彰・記憶の継承活動について考察を深めた。</p> <p>【実施状況】</p> <p>1. 2015 年 9 月 16 日-9 月 21 日 :韓国(ソウル市、京畿道坡州市)でのフィールド調査実施</p> <p>主に二世男性兵士たちの戦闘経験と、現在のアメリカ国内における退役軍事としての記憶継承の活動を理解するため、韓国坡州市の平和ヌリ自由公園に所在する、記念碑を訪れた。これは 2001 年 5 月にカリフォルニア州フラトンに活動拠点を置く日系人朝鮮戦争退役軍人会によって建設されたものである。他にソウル市内の戦争記念博物館などでフィールド調査も行った。</p> <p>2. 2015 年 11 月 2 日-11 月 9 日 :米国(フィラデルフィア、ワシントン DC 近郊)にて国際シンポジウム口頭発表、及びフィールド調査実施</p> <p>先の韓国でのフィールド調査も踏まえ、米国のラ・サル大学にて実施されたシンポジウムでは 1950 年代当</p>	

時の日系男性兵士の文化的イメージに関する報告を行った【事業成果(1)】。また、ヴァージニア州に所在する米国女性従軍者記念館にて博物館調査、資料収集を実施した。今後は、日系人以外のアジア系アメリカ人女性の志願状況についても調査範囲を広げ、1950年代の新聞などのメディア表象を分析対象とし二世女性のケースとの比較検討を目指す。

3. 2016年4月～:重要先行研究の翻訳、文献解題の執筆開始

Cynthia Enloeによる *Maneuvers: The International Politics of Militarizing Women's Lives*, (Berkeley [CA]: University of California Press, 2000) に収録されている “Chapter 6 Nursing the Military: The Imperfect Management of Respectability” (第6章 従軍看護師——尊敬の不完全な管理) について、学内ジャーナル(外部査読付き)へ投稿するため邦訳と文献解題を現在準備中である。(2016年9月予定)

4. 2016年5月1日-5月14日 :米国(ロサンゼルス、フラトン、サクラメント)にてフィールド調査実施

①1950年代の日系人コミュニティでの、日系二世女性の従軍者に対する社会的イメージの解明: JACL 発行の新聞型機関紙『パシフィック・シティズン』等の記事を分析し、当時の二世女性兵士の評価についての分析を進め、現在論文を執筆中である。2016年12月にジェンダー史学会で口頭発表が決しており【事業成果(2)】、その後、投稿論文としてまとめる予定である。

②日系二世の退役軍を対象としたオーラル・ヒストリーの収集:カリフォルニア州に在住する日系二世の朝鮮戦争退役軍人たちを対象にインタビュー調査を実施した。期間の制限や調査対象者の事情も重なり、男性2名、女性1名計3名の聞き取りに留まった。今回はUCLAの図書館や全米日系博物館に所蔵する資料調査の収集に重点を置いた。インタビュー調査に関しては8月12日より渡米し、再調査を実施する。日系人朝鮮戦争退役軍人会の初代代表であるロバート和田氏の協力により、8月13、14日の日程でロサンゼルスの日系人街・リトルトーキョーで開催される Nisei Week の退役軍人パレードでの同行取材が実現する予定である。今後、男女間での従軍経験の差異や従軍が祖国帰還後の社会生活に与えた影響について検討を目指す。尚、本調査は申請者の今年度からの科研費プロジェクトとして継続、発展させていく予定である。(若手研究(B)「日系アメリカ人の朝鮮戦争従軍と社会参入:ジェンダーとエスニシティの視点から」課題番号:16K16670)

6. 事業成果と自己評価

【事業成果】

(1) “Cultural Images of Japanese American Nisei Soldiers in the Korean War: Analysis from 1950s 'Hollywood Films” AIA (Asians in America) Symposium, La Salle University (Philadelphia[PA],) 7 November, 2015. (平成27年11月7日) 添付資料①

(2) 「日系アメリカ人女性による朝鮮戦争従軍経験と社会参入——ジェンダーとエスニシティの視座から」ジェンダー史学会第13回年次大会、武蔵大学、平成28年12月18日(実施予定)添付資料②

【自己評価】米国と韓国でのフィールド調査、学会発表を経て、多くの資料や調査対象者からの希少な証言を得ることができた。しかし、1年間のうちに十分な成果発表までには至らなかったため今後積極的に発信していく。その第1弾として2016年10月上旬にお茶の水女子大学ジェンダー研究所主催の研究会にて、本事業の成果報告を行うことが決定している。【謝辞】竹村和子フェミニズム基金の皆様へ感謝申し上げますと共に、亡き恩師である竹村和子先生へ、ここに心からの感謝の意を示したい。